



A Prudential plc (UK) company

# イーストスプリング インド投資マンスリー

2023年8月号

インド投資マンスリー 動画配信中!



### イーストスプリング・インベストメンツ株式会社

金融商品取引業者 関東財務局長(金商) 第379号 加入協会 一般社団法人投資信託協会 一般社団法人日本投資顧問業協会

英国ブルーデンシャル社は、イーストスプリング・インベストメンツ株式会社の最終親会社です。 最終親会社およびそのグループ会社は主に米国で事業を展開しているプルデンシャル・ファイナンシャル社、および英国のM&G社の子会社である プルーデンシャル・アシュアランス社とは関係がありません。

この資料の最終ページにご留意いただきたい事項を記載しております。必ずご確認ください。

230803 (04)

# 株式:続伸、6月に続き史上最高値更新

### **SENSEX指数の推移**(2021年12月末~2023年7月末、日次)



### 2023年7月の振り返り

インド株式 (SENSEX指数) は、7月20日に史上最高値 (終値ベース) を更新、月間では2,8%上昇しました。

規模別では、中型株と小型株はそれぞれ5.7%、7.4%と大型株を上回る上昇となりました。

月前半は、海外機関投資家からの旺盛な資金流入や予想を上回る企業業績、安定した国内経済指標の発表などがインド株式をけん引しました。しかしながら、下旬に米連邦準備制度理事会(FRB)が0.25%の利上げを決定し、必要であれば今後も利上げを行う可能性を示唆すると、インド株式は下落に転じました。

セクター別では、耐久消費財以外のすべてのセクターが上昇、特に 公益事業と資本財が好調でした。

売買動向では、海外機関投資家は買い越した一方、国内機関投資家は売り越しに転じました。

### 規模別指数の期間別騰落率 (2023年7月末時点)

	1ヵ月間	3ヵ月間	6ヵ月間
大型株 (SENSEX指数)	2.8%	8.9%	11.7%
中型株 (BSE中型株指数)	5.7%	19.3%	23.4%
小型株 (BSE小型株指数)	7.4%	21.0%	24.1%

出所: Bloomberg L.P.のデータに基づきイーストスプリング・インベストメンツ作成。 ※全てプライス・リターン、インドルピーベース。\*終値ベース。

# 債券:インフレ率、10年国債利回りともに上昇

### 政策金利\*、インフレ率\*\*、10年国債利回りの推移





### 2023年7月の振り返り

10年国債利回りは上昇(価格は下落)し、7.18%となりまし た。

債券価格は、インフレ率上昇懸念と毎週行われる国債入札が 不調であったことから下落しました。

12日に発表された6月のインフレ率は、前年同月比+4.81% と、5月から上昇しました。トマトの価格が前月比+65%、トマト を除いた野菜価格も前月比+8.3%と大幅に値上がりしている ことが全体を押し上げました。

売買動向では、海外機関投資家は先月に続き買い越しました。

### 債券利回りと利回り差の変化幅

	2023年 7月末	2023年 6月末	変化幅	
10年国債利回り	7.18%	7.12%	0.06%	
10年社債利回り***	7.67%	7.67%	0.00%	
利回り差	0.49%	0.55%	-0.06%	

出所: Bloomberg L.P.のデータに基づきイーストスプリング・インベストメンツ作成。

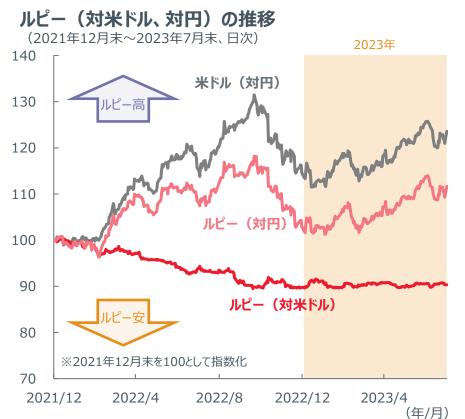
利回り差等については四捨五入の関係で数値間で整合しない場合があります。

<sup>\*</sup>レポ金利、\*\*消費者物価指数(CPI) ト昇率(前年同月比)、同項目のみ月次。新基準(2012年=100)による統計を使用。2023年6月まで。

<sup>\*\*\*10</sup>年社債利回りはBloomberg FIMMDA India Corporate Bond Curve AAA 10 Year Corporateの利回りを使用。

# 為替:ルピーは対米ドル、対円ともに下落

- 7月のルピーは、対米ドルで0.3%、対円では1.9%の下落となりました。
- 2020年以降のルピーの動きをみると、他の新興国通貨と比べて対米ドルで相対的に安定した推移となっています。





出所: Bloomberg L.P.のデータに基づきイーストスプリング・インベストメンツ作成。



# IMF世界経済見通し -7月発表の見通しでインドは上方修正-

- IMF(国際通貨基金)は、7月25日に四半期に一度の経済見通しを公表しました。世界経済の成長率は2022年の3.5%(推計)から2023年、2024年はともに3.0%に減速する見込みとしています。
- インドの2023年の成長率は、6.1%と予測され、前回4月の見通しから0.2ポイント引き上げられました。国内投資が拡大した結果、2023年1-3月期の成長率が予想を上回ったことなどを反映しています。

### 主要国·地域の実質GDP(国内総生産)成長率見通し

(単位:%、2022年~2024年)

			2023£		.3年	2024年	
		2022年	(予測)	前回差	(予測)	前回差	
世界	世界		3.5	3.0	0.2	3.0	0.0
	先進国		2.7	1.5	0.2	1.4	0.0
		米国	2.1	1.8	0.2	1.0	-0.1
		ユーロ圏	3.5	0.9	0.1	1.5	0.1
		日本	1.0	1.4	0.1	1.0	0.0
	新興国		4.0	4.0	0.1	4.1	-0.1
		インド	7.2	6.1	0.2	6.3	0.0
		中国	3.0	5.2	0.0	4.5	0.0
		ASEAN5*	5.5	4.6	0.1	4.5	-0.1
		ロシア	-2.1	1.5	0.8	1.3	0.0
		ブラジル	2.9	2.1	1.2	1.2	-0.3
	メキシコ	3.0	2.6	0.8	1.5	-0.1	

出所: IMF世界経済見通し(2023年7月)のデータに基づきイーストスプリング・インベスメンツ作成。前回差は2023年4月時点の予測値との差。 \*ASEAN5は、インドネシア、マレーシア、フィリピン、タイ、ベトナム。



# 日印、経済関係の更なる連携強化へ

- 7月20日、西村経済産業大臣がインドのニューデリーを訪問しました。「日印産業共創イニシアティブ」を発表したほか、「半導体サプライチェーンパートナーシップ」 に係る協力覚書を締結しました。訪印中、ヴァイシュナウ電子情報技術大臣やゴヤル商工大臣、シンディア鉄鋼大臣などと会談し、二国間協力の進化や経済 発展と脱炭素化の両立などについて協議を行いました。
- 半導体に関しては、米中対立を背景に各国で供給網の見直しが進むなか、半導体製造装置や素材等について、政策対話を通じてインド国内での半導体製造を後押しすることになります。



### 日印産業共創イニシアティブ概要



### ①既存産業協力の強化

◆ 鉄鋼協力

経済成長と脱炭素化の両立

- ・鉄鋼生産の炭素原単位の適切な測定方法の確立
- ・鉄鋼対話を通じた事務レベルでの作業実施
- ◆ 繊維協力

「日本式検品所」を新設

◆ 中小企業協力

「日本式ものづくり教育プログラム」を実施

#### ③新市場への展開

- ◆ 輸出企業インド進出促進
- ◆ インド輸出競争力強化
- ◆ 第三国輸出促進

### ②未来産業の創出

- ◆ 半導体サプライチェーン協力 「日印半導体サプライチェーンパートナーシップ」に係る協力 覚書締結
  - ・半導体製造装置や素材等についての政策対話
- ◆スタートアップ協力
- ◆デジタル協力
- ◆ 水素・アンモニア協力
- ◆エネルギー技術協力
- ◆ トランジション・ファイナンスに関する連携

出所:経済産業省公表資料、各種報道に基づきイーストスプリング・インベストメンツ作成。



# 当資料に関してご留意いただきたい事項

- ▶ 当資料は、イーストスプリング・インベストメンツ株式会社が、情報提供を目的として作成した資料であり、金融商品取引法に基づく開示 資料ではありません。また、特定の金融商品の勧誘・販売等を目的とした販売用資料ではありません。
- 当資料は、信頼できると判断された情報等をもとに作成していますが、必ずしもその正確性、完全性を保証するものではありません。
- ▶ 当資料の内容は作成日時点のものであり、当社の見解および予想に基づく将来の見通しが含まれることがありますが、将来予告なく変更されることがあります。また、将来の市場環境の変動等を保証するものではありません。
- ▶ 当資料で使用しているグラフ、パフォーマンス等は参考データをご提供する目的で作成したものです。数値等の内容は過去の実績や将来の予測を示したものであり、将来の運用成果を保証するものではありません。
- ▶ 当資料では、個別企業に言及することがありますが、当該企業の株式について組入の保証や売買の推奨をするものではありません。
- ▶ 当社による事前の書面による同意無く、当資料の全部またはその一部を複製・転用並びに配布することはご遠慮ください。